



大門 (重要文化財)
 Dai-mon Gate

高野山の総門で、宝永2年(1705)に再建された。高さ25.1mの重層の楼門で、両脇に安置する金剛力士は、江戸時代の仏師康意、運長による大作である。



霊宝館 Reihokan Museum

高野山の貴重な文化遺産を保存・展覧する施設として、大正10年(1921)に開催された。その後収蔵品の増加に伴い昭和36年(1961)には大宝蔵を増設し、山内の国指定物件の文化財を収蔵している。現在、国宝21件・4692点、重文147件・20227点、県指定文化財(県文)16件・2862点を収蔵する他、未指定品50000点以上を数える。

高野山豆知識



高野山町石道 (国指定史跡地域) と五輪塔

麓の慈尊院から高野山へ通じる180町の表参道を高野山町石道といい、開山のおり弘法大師空海が木製の卒塔婆を建てて道しるべとした道で、鎌倉時代には、朽ちた木製の代わりに覚きょう上人の発願により、20年の歳月をかけて、石造の五輪塔形の町石が1町(109m)ごとに建てられた。仏教では、「宇宙を形成する物質は、空・風・火・水・地の五つの要素からなる。」と説かれている。この五つの構成要素を宝珠、半月、円、方形にかたどったものが五輪塔である。それぞれの部分に空・風・火・水・地を意味する梵字(サンスクリット文字)が刻まれている。奥之院参道には、多くの五輪塔形の墓碑が見受けられる。



そこは

山上の大宇宙

壇上伽藍 (国指定史跡地域) Danjo Garan Sacred Temple Complex

弘法大師空海の高野山開創の目的は、人々が厳しい修行によって悟りを開くための真言密教の根本道場として、伽藍を創設することであった。そのため開創当初にこの地が拓かれ、まず講堂(金堂)が創建され、続いて鎮守として丹生・高野両大明神が勧請され、引き続き大塔その他の諸堂が建立された。なかでも大塔の造営は、大事業で大師と、その後大師の志を継いだ真然大徳との二代にわたって完成したものである。現在は、不動堂(国宝)を除く他の建物は、落雷等で焼失し再建されたものである。



御影堂 Mie-do Hall

弘法大師空海の持仏堂、念誦堂で、真如親王筆の大師の御影をお祀りしている。現在の建物は、弘化4年(1847)に再建された。緩やかな屋根の勾配と深い軒を持つ優雅なお堂である。



金堂 Kon-do Hall

伽藍の中央にある一山の総本堂で、高野山の主な行事は、ここで執り行われる。弘仁10年(819)に創建。現在の建物は、7度の焼失で昭和7年(1932)に再建されたものであり、本尊は、高村光雲作の薬師如来(阿閼如来)。壁画は、木村武山画伯の筆、両界曼荼羅は平清盛が自らの額を割った血で中尊を描かせた「血曼荼羅」である。

大塔内陣 Daito Najin

中央に胎藏界大日如来、四方に金剛界四仏、周囲16本の柱には、堂本印象画伯の十六大菩薩と内壁には、真言八相像と花鳥が描かれ立体曼荼羅を表している。

根本大塔 Konpon Daito Great Pagoda

弘法大師空海が高野山を開創され、真言密教の根本道場として着手されたのがこの建物である。朱色に映え立派さと大きさに眼をうばわれるこの建物は、6年の歳月をかけ、昭和12年(1937)に再建されたものであり、高さ約49メートル、約24メートル四面の偉容を誇る。真言密教のシンボルでもある。多宝塔としては日本で最初のものである。



金剛峯寺 (国指定史跡地域)



高野山真言宗の総本山で全国に約3600ヶ寺の末寺を有する。山上のほぼ中央にあり、弘法大師空海が開創した当時は、高野山全域を金剛峯寺と称した。現在の金剛峯寺は、文禄2年(1593)豊臣秀吉が亡母の菩提を供養するために木食応上人に命じて建立した青巖寺・興山寺を明治2年(1869)に合併し、総本山金剛峯寺と改称した。



苺萱堂 Karukaya-do Hall

苺萱道心と石童丸が父子を名乗らないまま仏道修行に明け暮れたという伝説ゆかりのお堂である。『石童丸物語』は、高野聖によって全国津々浦々で語られ、堂内にはこの物語を絵にした額がいくつも掛けられている。

高野山開創1200年

平成27年(2015)、弘法大師空海が真言密教の根本道場として高野山を開創して、1200年を迎えました。また記念事業のひとつとして壇上伽藍中門が再建されました。



徳川家霊台 (重要文化財)
 Tokugawa Mausoleum

三代将軍家光が20年の歳月を費やし寛永20年(1643)建立された。右が東照宮家康霊屋、左が二代将軍秀忠霊屋で江戸時代初期の代表的な建造物。日光東照宮とは比較しがたい規模ながら廟飾は、黄金色に燦然と輝き、隅々まで細緻な技法がつかされている。



女人堂 Nyonin-do Hall

女人禁制の昔、七つの登山口にはそれぞれ女人堂が設けられ参拝の女人は、これより入山が許されずこのお堂にて真言を唱えつつ夜を明かしたという。明治5年(1872)、女人禁制が解かれたがこのお堂だけが今も残っている。

奥之院 (国指定史跡地域) Okuno-in

一の橋から弘法大師御廟までの約2kmの参道の両側には、樹齢数百年の杉の大樹とともに歴史に名を残す諸大名などの20万基を超える墓碑や供養塔が立ち並んでいる。老杉から差す神々しい光に浮かび上がる苔むした墓石群は永い歴史を感じさせる。



弘法大師御廟
 Kobodaishi Gobyō Mausoleum

大師信仰の中心聖地。高野三山(転軸・楊柳・摩尼)に囲まれた台地にあり、その山裾を玉川が清く流れる。大師は、この地を入定留身の地として、自ら定められていたと言う。承知2年(835)3月15日から大師は禪定に入れ、21日には、結跏趺座して、そのまま宛然として生きるがごとく御入定された。その窟の上に、3間、4面の宝形造りの廟が建立されました。御入定後の延喜21年(921)10月22日、醍醐天皇は「弘法大師」号を贈られるとともに、檜皮色の香衣一着を御下賜になり、それ以来、毎年3月21日には、御衣替の儀式が今も行われている。

燈籠堂 Toro-do Hall

御廟前の拝堂として建立されたものだが、江戸時代になってからは、参拝者の献じる燈籠は多くなり、今では万燈を超え献燈籠として灯されている。又、長和5年(1016)孝女お照が自らの髪を売り両親の菩提のために献じた「貧女の一燈」と寛治2年(1033)白河法皇が献燈の「白河燈」は、一千年来燃え続けていると共に、昭和23年(1948)、昭和天皇から献上された「昭和燈」と合わせてこの3燈は、常明燈と呼ばれている。



御廟橋 Gobyō no hashi Bridge

この橋を渡ると霊域に入る。橋板は36枚で橋全体を一尊として金剛界三十七尊を表している。参拝者は、ここで服装を正し、清らかな気持ちで礼拝し御廟に参拝する。

水向地蔵 Mizumuke-jizo

玉川の流水にかかる御廟橋のたもとに、いくつものお地蔵様が並んでいる。先祖供養をすませた後、経木をお地蔵様におさめ、水を手向けて冥福を祈る。



高野山豆知識



高野山のケーブルカー

電車の終着駅「極楽橋」からケーブルカーで一気に高野山へ。このケーブルカーは、延長0.8km。最高勾配30度。極楽橋から約340mの高さを5分で引き上げます。

交通 ACCESS



電車で
なんば駅 南海電鉄(特急) 極楽橋 ケーブル 高野山駅 約2時間
和歌山駅 JR 橋本駅 南海電鉄 極楽橋 ケーブル 高野山駅 約2時間30分

車で
大阪 170号・371号経由 橋本 480号経由 高野山 約2時間30分
白浜 42号 田辺 高野龍神スカイライン経由 高野山 約3時間30分
名古屋 東名阪 亀山I.C 名阪国道 西名阪 郡山I.C 約5時間
24号・京奈和 紀北かつらぎI.C 480号経由 高野山 約5時間

◆高野山から高野龍神スカイライン[42.7km]を利用して
・龍神温泉まで約1時間10分(50km)
・田辺市まで約2時間10分(97km)
・白浜町まで約2時間30分(122km)
・那智勝浦町まで約3時間15分(160km)
・串本町まで約3時間30分(164km)